

地域における マイ・タイムライン 取組事例集

令和4年8月

国土交通省 水管理・国土保全局
河川環境課 水防企画室

マイ・タイムラインの取組事例について

本事例集では、マイ・タイムライン普及啓発の取組について、国土交通省(河川事務所等)で市区町村を支援した事例を中心に、対象や取組概要および期待される効果等の視点でとりまとめたものです。

マイ・タイムラインの取組を軸に、更なる水害リスクの周知に取り組んでいただくための一助として本事例集が活用されれば、幸いです。

スライド	地方	主な関連自治体名	主な対象					講師/ファシリテーター				形式		
			一般住民	児童	学校関係者	防災士等	自治体職員	その他	行政	気象予報士	防災士等	その他	対面式	オンライン
4	北海道	恵庭市	●						●				●	
5	北海道	名寄市	●				●		●				●	
6	北海道	川上郡標茶町		●					●			●	●	
7	北海道	北見市		●					●			●	●	
8	北海道	天塩郡幌延町		●					●				●	
9	東北	岩木川流域自治体等	●			●	●		●			●	●	
10	東北	宮城県美里町	●						●			●	●	
11	東北	山形県南陽市	●							●		●	●	
12	東北	岩手県盛岡市		●	●				●				●	
13	東北	米代川流域自治体等					●		●	●			●	
14	関東	鬼怒川・小貝川流域自治体	●								●		●	
15	関東	群馬県高崎市		●					●				●	
16	関東	茨城県常総市	●						●			●	●	
17	関東	茨城県ひたちなか市						●	●				●	
18	関東	埼玉県東松山市						●	●	●				●

マイ・タイムラインの取組事例について

スライド	地方	主な関連自治体名	主な対象						講師/ファシリテーター				形式	
			一般住民	児童	学校関係者	防災士等	自治体職員	その他	行政	気象予報士	防災士等	その他	対面式	オンライン
19	北陸	長野県埴科郡坂城町	●						●				●	
20	北陸	横越コミュニティ協議会	●	●					●				●	
21	北陸	新潟県上越市		●					●				●	
22	北陸	長野県長野市		●					●				●	
23	北陸	手取川・梯川流域自治体					●		●				●	
24	中部	岐阜県瑞浪市	●						●		●		●	
25	中部	長野県伊那市	●						●			●		●
26	中部	岐阜県安八町		●					●				●	
27	中部	静岡県浜松市		●					●					●
28	中部	静岡県静岡市			●							●	●	
29	近畿	福井県福井市	●						●		●	●	●	
30	近畿	兵庫県たつの市	●						●	●			●	
31	近畿	京都府福知山市	●									●	●	
32	近畿	京都府綾部市	●						●				●	
33	近畿	京都府城陽市		●	●							●	●	
34	中国	広島県広島市	●	●					●			●	●	
35	中国	山口県防府市		●					●				●	
36	中国	鳥取県鳥取市	●						●				●	
37	中国	岡山県倉敷市						●	●				●	
38	中国	岡山県岡山市						●	●				●	

マイ・タイムラインの取組事例について

スライド	地方	主な関連自治体名	主な対象						講師/ファシリテーター				形式	
			一般住民	児童	学校関係者	防災士等	自治体職員	その他	行政	気象予報士	防災士等	その他	対面式	オンライン
39	四国	香川県坂出市	●									●		●
40	四国	愛媛県松山市	●	●		●			●				●	
41	四国	愛媛県松山市	●	●	●			●	●			●	●	●
42	四国	徳島県松茂町		●					●				●	
43	四国	香川県まんのう町	●	●								●	●	
44	九州	福岡県飯塚市	●						●				●	
45	九州	佐賀県佐賀市	●		●				●				●	
46	九州	大分県延岡市	●						●				●	
47	九州	福岡県朝倉市		●					●				●	
48	九州	山国川流域自治体					●	●	●			●	●	

マイ・タイムラインの事例

町内会及び地域住民を対象としたマイ・タイムライン検討を開催しました(北海道恵庭市)

取組主体 : 恵庭市

取組参加機関: 恵庭市(大町町内会)、札幌開発建設部

対象 : 恵庭市大町地区

参加人数 : 第1回(大町町内会役員)15名、第2回(大町町内会の住民)19名 計34名

取組概要 :

- 恵庭市大町地区では、想定しうる最大規模の降雨に伴い、漁川等の河川が氾濫した場合、大部分の地域が浸水し、大きな被害が発生することが想定されている。このため、「自らの命は自らで守る」意識を住民に広めることを目的に、マイ・タイムライン検討会を開催。
- 検討会は、町内会役員を対象にした検討会(共助目的)と地域住民を対象にした検討会(自助目的)の2回に分けて開催。
- 検討会では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、検温の実施、消毒の徹底等の対策を実施。
- 当日は、近年の水害、タイムラインの目的、河川情報の把握方法等を説明したうえで、町内会役員と地域住民それぞれの立場から「いつ・何をするか」を自ら考え、タイムラインを作成。

取組内容 :

◆第1回: 町内会役員を対象としたタイムライン検討会

- 近年の水害と大雨に向けた事前準備について
 1. 近年の水害
 2. 被害軽減に向けた取組
 3. タイムラインとは
 4. 大雨が降る前に確認すること(浸水範囲と避難先の確認、避難情報や河川情報の把握)
 5. タイムライン作成に向けて
- 大町町内会における大雨時の対応を考える(町内会役員(共助目的)によるタイムラインの作成)
- 各グループの検討結果の確認



◆第2回: 地域住民を対象としたタイムライン検討会

- 近年の水害と大雨に向けた事前準備について
※第1回と同じ内容
- 自分が置かれた状況を確認する
 1. 自宅の浸水状況
 2. 避難先
 3. 家庭の状況
- 大雨時における自らの対応を考える(地域住民(自助目的)によるマイ・タイムラインの作成)



期待される効果:

- 町内会役員(共助)と地域住民(自助)の行動計画を検討し、両者をまとめることで、町内会全体のタイムラインを構築することができ、地域全体での水防意識向上が期待できる。

事例のポイント:

- 個人のタイムライン(マイ・タイムライン)に、町内会役員の行動計画を加えることで、地域全体でのタイムラインの構築を図った。

マイ・タイムラインの事例

防災セミナーでマイ・タイムライン作成実習講習会を実施 (北海道名寄市)

取組主体 : 名寄市

取組参加機関: 名寄河川事務所

対象 : 名寄市民

参加人数 : 名寄市民 74名(市職員7名含む)

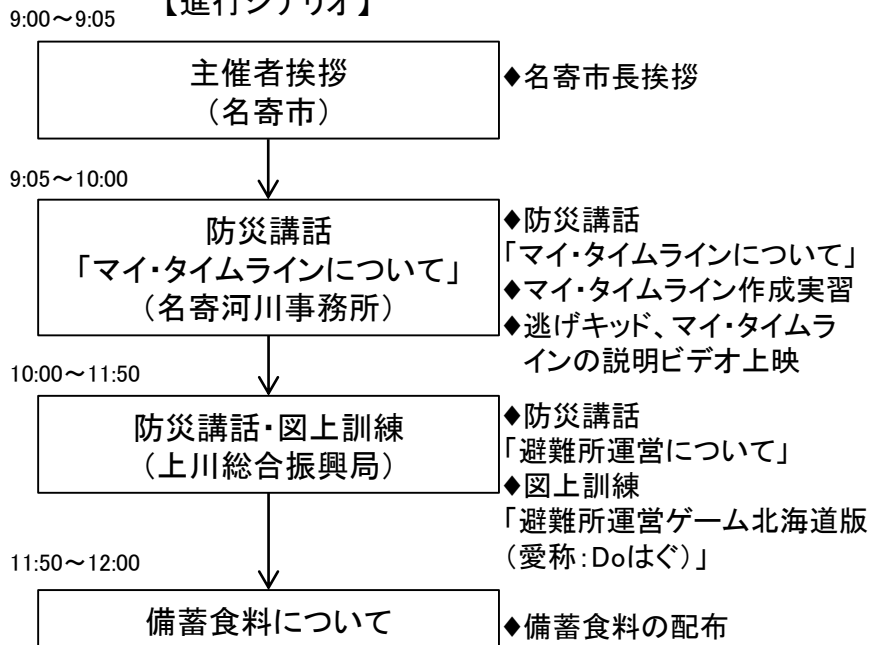
取組概要 :

- 防災講話では、近年の全国各地の災害の事例や特性等を踏まえ、あらゆる関係者が協働する「流域治水」の考え方、取組内容、防災情報の取得方法等を紹介。
- マイ・タイムライン作成実習では、作成手順に関する説明ビデオや防災ツール「逃げキッド」を活用し、自身と共に家族の取るべき行動について「いつ」、「誰が」、「何をするか」を考え、時系列にしたマイ・タイムラインの作成を実施。
- 講習時は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、広い空間を確保できる会場を使用して休み時間には空気の入れ換えを実施、消毒の徹底等の対策を実施。

取組内容 :

取組の様子 :

【進行シナリオ】



期待される効果:

- 近年の災害事例や特性等を踏まえ、マイ・タイムラインを作成することによる水防災の危機管理意識向上や、避難判断の一助としての活用が期待される。

事例のポイント:

- ハザードマップの利用促進や、流域治水に関する知識の共有、平常時から出来る行動(水害リスクの確認等)をとる事での水防災への意識向上と、災害時の被害減少を図った。

マイ・タイムラインの事例

小学校の防災教育で「マイ・タイムライン」づくりにチャレンジ (北海道標茶町)

取組主体 : 標茶町

取組参加機関: 釧路開発建設部、釧路地方気象台、標茶町役場、北見工業大学

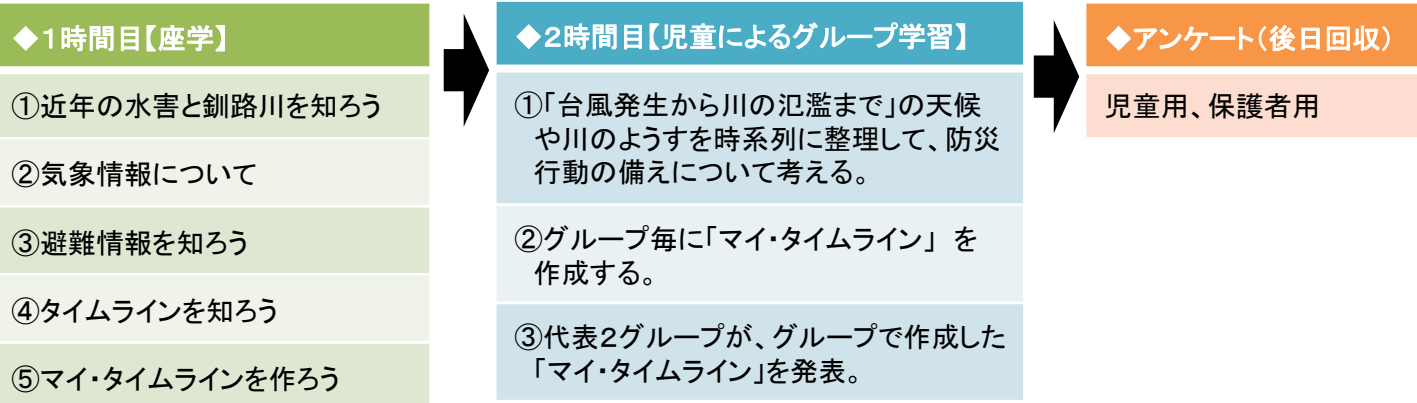
対象 : 標茶町立標茶小学校 6年生

参加人数 : 53名

取組概要 :

○「水害タイムライン試行版」の作成に携わった検討会事務局のメンバーと一緒に、標茶町立標茶小学校の6年生が、自らの防災行動を考える学習「マイ・タイムライン」づくりにチャレンジしました。

取組内容 :



期待される効果:

- 幼少期からの水防意識向上が期待できる。
- 幼少期から学ぶことで、「マイ・タイムライン」促進・普及に繋がる。

事例のポイント:

- 保護者へのアンケートを行うことで、家庭での水防災意識向上も期待できる。

マイ・タイムラインの事例

小学校の防災教育で「マイ・タイムライン」づくりにチャレンジ (北海道北見市)

取組主体 : 北見市

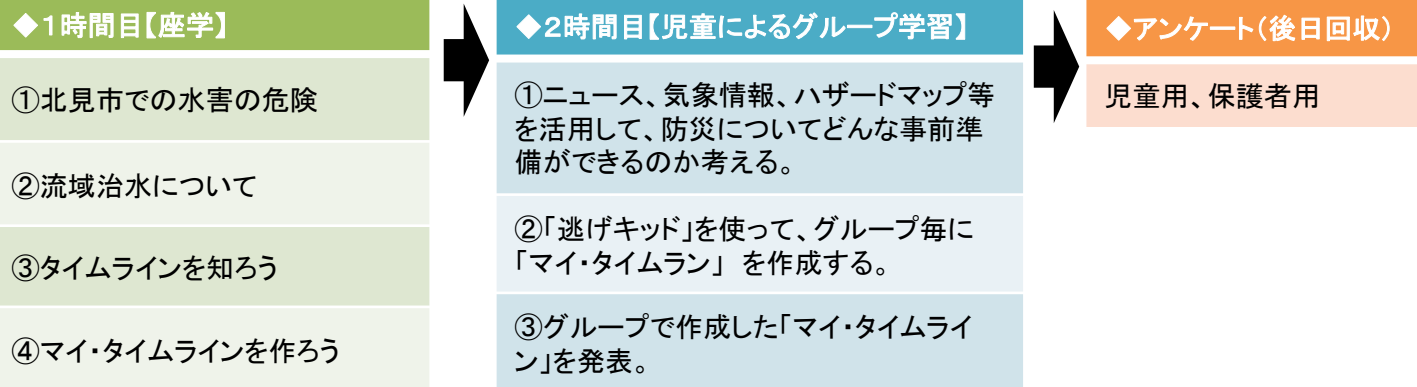
取組参加機関: 網走開発建設部 北見河川事務所、北開水工コンサルタント、北見工業大学

対象 : 北見市立小泉小学校 6年生

参加人数 : 81名

取組概要 : 令和3年12月10日(金)及び14日(火)、北見市立小泉小学校において「川の防災学習会」を開催し、流域治水の取組として、「いつ」「何をするか」を整理した『マイ・タイムライン』づくりにチャレンジしました。

取組内容 :



・1時間目は、各機関から防災に関する座学を行いました。

・児童に、国内における近年の水害や北見市での水害の危険、みんなで災害対策を考える流域治水について説明しました。

・マイ・タイムライン作成ツール『逃げキッド』を使い、災害が起きそうなとき私たちはどんな備えをするとよいか各班で考え、発表しました。

・2時間目は、グループに分かれてマイ・タイムライン作成にチャレンジしました。

・作成後は代表グループが検討内容を発表、講師の方に講評していただきました。



期待される効果:

- 幼少期からの水防意識向上が期待できる。
- 幼少期から学ぶことで、「マイ・タイムライン」促進・普及に繋がる。

事例のポイント:

- 保護者へのアンケートを行うことで、家庭での水防災意識向上も期待できる。

マイ・タイムラインの事例

小学校の防災教育で「マイ・タイムライン」づくりにチャレンジ (北海道幌延町)

取組主体 : 幌延町

取組参加機関: 留萌開発建設部

対象 : 幌延小学校 4年生

参加人数 : 21名

取組概要 : 幌延小学校(小学4年生)を対象に、洪水の映像による災害の振り返りや、幌延町の洪水ハザードマップによる浸水範囲や避難場所の確認、及びマイ・タイムラインの作成などの防災教育を行いました。

取組内容 :

◆近年の水害 発生状況

1. かわたび 天塩川景観編《映像》
2. かわたび 天塩川アクティビティ編《映像》
3. 松浦武四郎がたどった24日間の足跡
4. 昭和63年8月留萌川大洪水災害記録《映像》
5. 水害を防ぐための対策の確認
6. 幌延町防災マップによる避難場所の確認
7. 備えておきたい防災グッズの説明
8. 天塩川のVR映像体験

◆日頃からの備え

1. マイ・タイムラインで逃げ遅れゼロ《映像》
2. マイ・タイムラインの作成

○学習発表

作成した「マイ・タイムライン」の発表。

期待される効果:

- 幼少期からの水防意識向上が期待できる。
- 幼少期から学ぶことで、「マイ・タイムライン」促進・普及に繋がる。

事例のポイント:

- 保護者へのアンケートを行うことで、家庭での水防災意識向上も期待できる。



講習会の事例

浸水想定区域内の住民向け流域防災研修会（青森県弘前市）

取組主体 : 青森県危機管理局(岩木川等大規模氾濫に関する減災対策協議会)

取組参加機関: 青森県・青森河川国道事務所・流域市町村・県防災アドバイザー

対象 : 浸水想定区域の住民(自主防災組織未設立町内会、防災リーダー)、防災士、女性防災活動者、市町村担当職員等

参加人数 : 約30名

開催日 : 令和3年6月19日(火)

取組概要 : 浸水想定区域内の住民を対象に、青森河川国道事務所職員が岩木川の特徴や氾濫を防ぐ・減らすための対策について講演し、県防災アドバイザーより防災・減災の考え方やマイ・タイムラインを活用した住民避難の促し方などを学ぶ流域防災研修会を開催した。

取組の様子 :



期待される効果:

実災害で被害が想定される洪水浸水想定区域の地域において、流域防災研修会を開催することにより、地域の指導者的防災リーダーを育成し、自主防災組織の設立や活動促進を重点的に働きかけることで洪水時の逃げ遅れ等による人的被害の軽減が期待される。

事例のポイント:

浸水想定区域内の地域の指導者的防災リーダーに対し、河川管理者(国交省)から河川の特徴とこれまでの水害・被害を紹介し、県防災アドバイザーより水災害における地域の役割や重要性、マイ・タイムラインの活用方法に関する知識・理解を深める場とした。

町内参加者を対象としたマイ・タイムライン作成

マイ・タイムライン作成を通じた防災教育支援(宮城県美里町)

取組主体 : 宮城県美里町

運営・支援 : 鳴瀬川等・北上川下流等減災対策協議会及び流域治水協議会
(北上川下流河川事務所)

対象 : 美里町住民

開催日時 : 令和3年9月16日(木)
午前の部・午後の部に分けて実施

開催場所 : 美里町中央コミュニティセンター大ホール

参加人数 : 約30人程度

取組概要 :

- ・水害等による被害軽減対策の一環として、日頃から防災・減災に対する意識を高め、災害時の避難準備や行動について考えていただくもの。
- ・洪水ハザードマップや避難の考え方を確認し、最近の災害や気象の特徴についての説明を行い、それぞれの家族構成や生活環境にあわせたオリジナルのマイ・タイムラインを作成すること。

【進行シナリオ】1. 開会挨拶(3分)

2. 避難情報やハザードマップについて(30分)

3. マイ・タイムラインとは(10分)

4. 連絡事項(2分)

5. 『逃げキッド』を用いたマイ・タイムライン作成(65分)



開会(美里町長あいさつ)



説明やマイ・タイム作成の様子

期待される効果:

今回講習会で作成したものを最終とせず、今後も生活や周囲の環境変化に即したマイ・タイムラインの準備と災害時における行動意識が大切である事を申し上げた。また、災害時の避難のタイミングや情報の収集においては、高齢者や一人暮らしの方など「誰一人取り残されないため」の地域での声かけや繋がり的重要性も参加者で再確認する事が出来た。

事例のポイント:

換気や消毒の徹底などコロナウイルス感染防止に配慮しながら、参加者の作成意欲や関心が高まる様に進行や説明の仕方にも工夫をして実施した。

山形河川国道事務所の事例

気象キャスターとつくるマイ・タイムライン講習会 (山形県南陽市)

取組主体 : 南陽市

取組参加機関: 山形河川国道事務所、外部講師(気象キャスター: 鈴木智恵氏)

対象 : 南陽市民

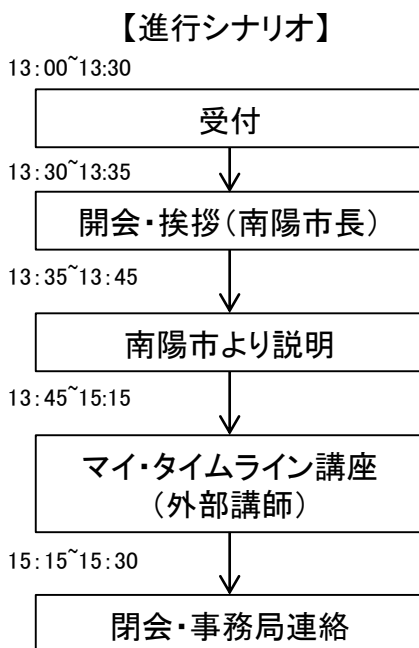
参加人数 : 約140名程度

開催日 : 令和2年1月25日(土)

取組概要 :

- ・近年の激甚化・頻発化する水害に備え、住民一人一人の生活にあった命を守るため避難計画「マイ・タイムライン」の作成を通して、自宅周辺の洪水リスク、避難場所、防災情報の入手方法を学習し、自分自身の避難方法を考えておくことは非常に有効である。講習会では外部講師による説明をいただき「逃げキッド」を用いてマイ・タイムラインの作成を行った。

取組の様子 :



期待される効果:

- ・マイ・タイムライン作成講座を市内の各地区ごとを実施することで、自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知ることが期待される。

(写真: 南陽市提供)

事例のポイント:

- ・気象キャスターによるわかりやすい気象情報の解説を交え、より住民に対して馴染みやすい講習会となった。

岩手河川国道事務所の事例

学校における防災学習会(岩手県盛岡市)

取組主体 : 盛岡市立上田中学校

取組参加機関: 岩手河川国道事務所

対象 : 上田中学校 2学年生徒、2学年教職員

参加人数 : 約120名

開催日 : 令和3年12月14日(火)

- 取組概要 :
- ・総合的な学習の時間として、河川の防災に関する事例を通して、地域の防災意識を向上させるために自分たちが出来ることを考えるとともに、自分の生活や将来の生き方に活かすことが出来るように期待する。
 - ・出前講座の講師として、防災学習会を実施した。
 - ・北上川の特徴、過去の水害状況の他、水害に対する備えとしてハザードマップや防災情報の入手方法、マイ・タイムライン作成の必要性などについて説明した。

取組の様子 :



期待される効果:

学校の生徒及び教職員が河川の防災に関する知識を習得することで、水害時における安全確保が期待される。

事例のポイント:

浸水想定シミュレーションの操作方法や河川情報の入手方法といった避難行動の目安となる防災情報の入手方法など、防災意識の向上に繋がる説明を行った。

能代河川国道事務所の事例

防災担当職員を対象としたマイ・タイムライン講習会 (秋田県能代市他)

取組主体 : 能代河川国道事務所(米代川大規模氾濫に関する減災対策協議会)

取組参加機関: 能代市、北秋田市、大館市、鹿角市、小坂町、藤里町、三種町、八峰町、
外部講師(気象キャスター: 岩谷忠幸氏、長村真里氏、ヤフー(株))

対象 : 防災担当職員

参加人数 : 18名

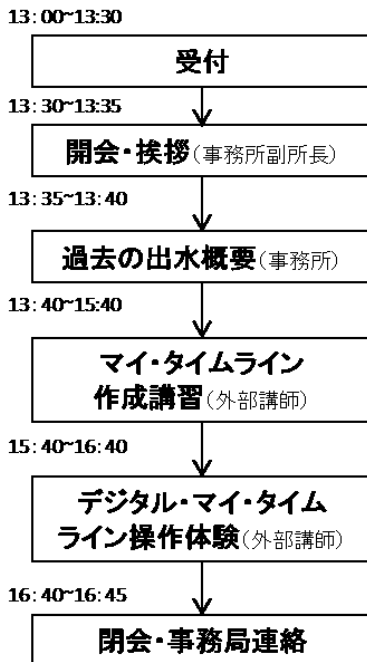
開催日 : 令和3年12月16日(木)

取組概要 :

- ・マイ・タイムラインの目的や作成方法、住民の方への周知に向けたポイントを学ぶことを目的とし、防災担当職員を対象とした講習会を開催した。
- ・講習会では、近年の水害の概要や最近の気象と情報、避難の考え方などについて話を聞いた後、「逃げキッド」を用いてタイムラインを作成した。
- ・また、ヤフー株式会社の協力により、スマートフォンとアプリを活用した「デジタル・マイ・タイムライン」の操作体験が行われた。

取組の様子

【進行シナリオ】



期待される効果:

- ・防災担当職員がマイ・タイムラインの目的や作成方法、住民の方への周知に向けたポイントを理解することで、住民への周知や普及の促進が期待される。

事例のポイント:

- ・スマートフォンとアプリを活用した「デジタル・マイ・タイムライン」の操作体験

オンラインによる作成講座の取り組み

コロナ禍におけるマイ・タイムライン作成講座 ～YouTubeで生配信～

取組主体 : 下館河川事務所(鬼怒川・小貝川流域減災対策協議会)

取組参加機関: 下館河川事務所、外部講師(防災芸人赤プルさん)

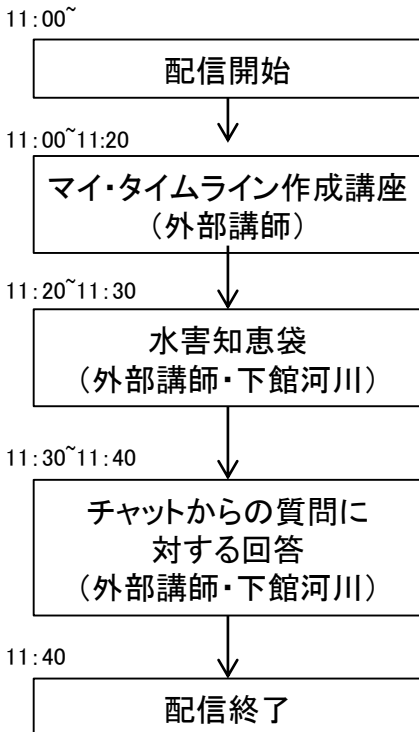
対象 : 誰でも自由参加

参加人数 : 当日視聴者数45名程度、閲覧数160名程度

取組概要 : ・マイ・タイムラインの普及・啓発活動の取り組みの一環として、流域(常総市)出身でマイ・タイムラインリーダーとして活動している防災芸人「赤プル」さんによるマイ・タイムライン作成講座を開催した。(R2.9.5)
・新型コロナウイルス感染症対策として、対面方式ではなくYouTube生配信で開催し、どなたでも自由に参加できる方法とした。講座で使用する教材「逃げキッド」は事前に下館河川事務所ホームページからダウンロードしてもらった。

取組の様子 :

【進行シナリオ】



期待される効果:

・YouTube生配信とすることで、通常の対面方式で開催する際に参加できない方の参加も期待できる。赤プルさんの防災リュックの中身を紹介するなど、身近な情報を含めることで防災意識の向上が期待される。

事例のポイント: 事前受付不要、自宅から視聴可能なため、気軽に参加できる。
アーカイブ配信も行うことで後日でも視聴可能。

マイ・タイムラインの作成事例

小学校の防災授業で「マイ・タイムライン」づくりにチャレンジ(高崎市)

取組主体 : 高崎河川国道事務所(烏・神流川流域大規模氾濫に関する減災対策協議会)
取組参加機関: 高崎市立新町第一小学校
対象 : 小学5年生
参加人数 : 47名
取組概要 :

- 学校・住居周辺の地形的特徴から、住んでいる地域の水害発生リスクを勉強。普段と出水時との川の違いや、何時も利用しているグラウンドの浸水状況を平常時と比較して、洪水の怖さを確認。逃げ遅れゼロを目指した避難行動のためのマイ・タイムラインを作成しました。
- 配布資料には、自宅に帰ってから家族で見直しできるように「おうち資料」を同封し、自宅での復習や家族と一緒に作成し直しが出来る資料を作成。
- 防災授業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、広い空間の体育館を使用するとともにマイ・タイムライン作成班とパネル学習・降雨体験班の2班に分け、感染防止対策を実施。

取組内容:

1. 学校・住居周辺の水害発生リスクを学ぶ
2. 学校・住居周辺で起きた過去の水害事例
3. マイ・タイムラインとは？
4. マイ・タイムラインの作成
5. パネルによる防災への備え(降雨・防災情報の入手方法・浸水想定区域図やハザードマップによる洪水リスクの把握)
6. 降雨体験車による降雨体験



期待される効果:

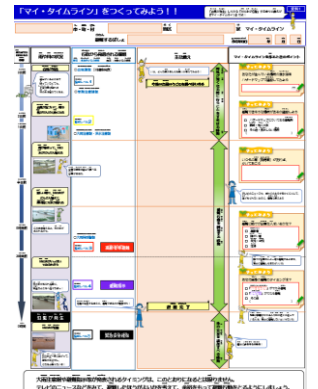
- 降雨体験や浸水想定範囲図、ハザードマップというツールから、住んでいる地域の水害に遭うリスクが高い事への意識をもつこと。
- 地域の特徴を知り、早めの避難準備を行うことにより、安全に避難が出来ることを知ること。
- 逃げ遅れゼロを目指すこと。



家族のことを考えながらの「マイ・タイムライン」を作成

事例のポイント:

- マイ・タイムラインシートなどの作成資料は小学生向きに文字や表現をわかりやすく工夫。
- 自宅へ持ち帰ってからも、家族でマイ・タイムラインが作成出来るように、自宅向けの作成資料を配布。



デジタル・マイ・タイムラインワークショップについて

デジタル・マイ・タイムラインの普及に向けた講習会 (茨城県常総市)

取組主体 : 国土交通本省(河川計画課、河川環境課)、常総市

取組参加機関: 国土交通本省(河川計画課、河川環境課)、常総市、筑波大学、
ヤフー株式会社、下館河川事務所

対象 : 三妻地区防災連絡協議会、常総市防災士連絡協議会、地域女性等連絡協議会、
地元区長

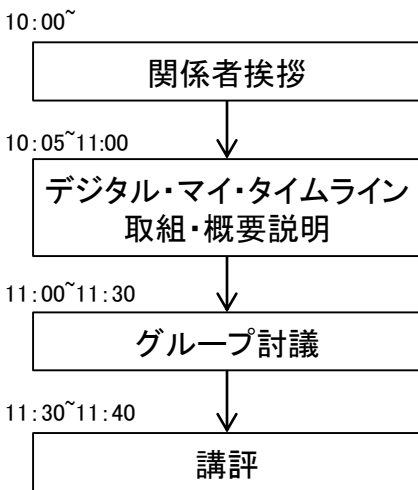
参加人数 : 40名程度

取組概要 :

スマートフォンアプリを活用した災害時の避難行動計画となる「デジタル・マイ・タイムライン」の普及に向けた講習会を常総市役所で開催した。講習会は、常総市長も参加し、ヤフー株式会社が提供する防災アプリを使用して操作性や改善点などについて、市民らと話し合う全国初の取り組み。

取組の様子 :

【進行シナリオ】



挨拶(常総市長)



ヤフー株式会社による説明



国土交通省による説明



グループ討議

期待される効果:

アプリを使って作成するデジタル・マイ・タイムラインの普及促進を図るとともに、防災アプリの操作性や改善点などの洗い出しを行い、マイ・タイムラインの実効性の向上が期待される。

事例のポイント: スマートフォンアプリを活用した全国初となるデジタル・マイ・タイムラインの講習会。

勤務先の防災行動も考慮した作成講座の事例

要配慮者利用施設職員を対象としたマイ・タイムライン作成講座(茨城県ひたちなか市)

取組主体 : ひたちなか市

取組参加機関: 関東地方整備局河川部、常陸河川国道事務所

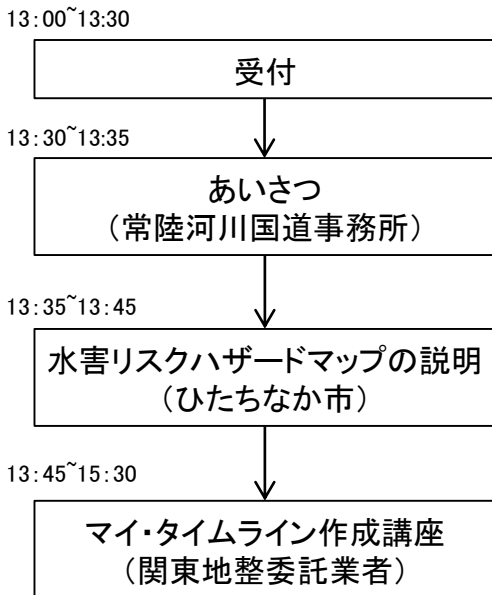
対象 : ひたちなか市内の要配慮者利用施設の避難確保計画作成対象施設の職員

参加人数 : 12人

取組概要 : 要配慮者利用施設の職員は、いざという時に要配慮者への支援を行いつつ、家族や自身の安全も同時に考えることが必要である。作成講座では、家族や自身の避難行動の他に、職場における避難行動として、要配慮者利用施設の避難確保計画に基づいた自身の役割や行動も含めて整理を行い、職場における避難行動も含めたマイ・タイムラインを作成した(自身の行動の具体化により、避難確保計画の見直しのきっかけにつながる)。

取組の様子 :

【進行シナリオ】



期待される効果:

要配慮者利用施設の職員の水防災に対する知識・意識の向上、またそれにより施設自体の避難確保計画の記載事項の具体化が期待される。

事例のポイント:

避難確保計画の具体化、要配慮者施設職員の水防災への意識向上。

オンラインによる作成講座の取り組み

マイ・タイムライン作成オンライン講習会 in東松山市

取組主体 : 東松山市

取組参加機関: 荒川上流河川事務所、東松山市、外部講師(FRICS、気象キャスター)

対象 : 日本青年会議所 国土強靱化委員会

参加人数 : 20名程度

取組概要 :

日本青年会議所の国土強靱化委員会メンバーを対象に防災に関する知識等の習得、地域の防災力向上のための「マイ・タイムライン」の普及展開を目的として、「マイ・タイムライン作成講習会in東松山市」をオンラインで開催した。

講習会には東松山市長も参加し、令和元年の東日本台風における対応等の紹介、水害リスクや「マイ・タイムライン」の重要性についての説明の他、東松山市の洪水ハードマップを用いながら参加者が「マイ・タイムライン」を実際に作成するなど、防災意識の向上、適切な避難行動の検討に役立つ講習を地元東松山市の防災の取組を国が支援する形で実施した。

取組の様子 :

【進行シナリオ】

13:00~

配信開始

13:00~13:25

関係者紹介・挨拶
(国土強靱化委員会)

13:25~13:50

東日本台風における対応・
取組紹介
(荒川上流・東松山市)

13:50~15:15

マイ・タイムライン説明・作成
(外部講師)

15:20

閉会挨拶・配信終了



期待される効果: 全国各地からJCに出向している各地方青年会議所メンバーが、今回の出前講座を通じて防災に関する知識等を習得し、水害時に率先してリーダーとなること、また、各参加者が地元を持ち帰り地域の防災力向上のために「マイ・タイムライン」の普及展開をしてもらうことが期待される。

事例のポイント:

ファシリテーターとして気象予報士の水越祐一氏よりハザードマップの読み解き方やマイ・タイムラインの作成方法を説明頂いた。

また、オンライン開催のため、自宅から気軽に参加できる。

マイ・タイムライン講習会の事例

住民向けマイ・タイムライン講習会（長野県埴科郡坂城町）

取組主体 : 千曲川・犀川大規模氾濫に関する減災対策協議会

取組参加機関: 千曲川河川事務所、坂城町

対象 : 坂城町上五明地区の住民

参加人数 : 約30名

取組概要 :

- ・住民によるマイ・タイムラインづくりの取組を広めるために、住民向けマイ・タイムライン講習会を開催した。
- ・参加者は、坂城町職員からのハザードマップの説明、千曲川河川事務所から最近の災害、気象の特徴について講義を受けた後、千曲川河川事務所職員からアドバイスを受けながら、ハザードマップを見て自身の住居地の浸水リスク、避難場所などを確認し、マイ・タイムラインの作成を行った。

取組の様子 :



期待される効果:

- ・マイ・タイムライン作成講座を実施することで、自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知り、住民自身はもちろん、地区の防災力が向上することが期待される。

事例のポイント:

- ・水害リスクや避難行動のあり方などについて、住民が住む地域に合わせた詳細な説明を行った。

マイ・タイムライン講習会の事例

住民向けマイ・タイムライン説明(新潟県新潟市)

取組主体 : 横越コミュニティ協議会

取組参加機関: 阿賀野川河川事務所

対象 : 新潟県新潟市江南区横越地区コミュニティ協議会、同地区の住民

参加人数 : 8名

取組概要 :

- ・住民の防災意識向上のため、地域住民を対象とした防災教育を実施した。
- ・参加者は、事務所職員による阿賀野川についての紹介をはじめ、防災に関する基礎知識やハザードマップと浸水ナビを用いた浸水シュミレーションを行い、その最後にマイ・タイムラインの紹介を行った。

取組の様子 :



期待される効果:

- ・過去の洪水や防災教育と合わせてマイ・タイムラインの紹介を実施することで、洪水に対して事前準備が重要であることが強く印象に残り、地域住民の防災意識向上が期待される。

事例のポイント:

- ・洪水の可能性をより身近に感じてもらうと防災情報だけではなく、阿賀野川の利用状況や洪水の歴史などの説明も行った。
- ・実際に浸水ナビを用いて参加者の自宅の浸水過程を見てもらい、避難ルート検討などの参考とした。
- ・上記2つのポイントを踏まえ、事前準備のツールの一つとしてマイ・タイムラインの紹介を行った。
- ・少人数での実施により、職員が参加者一人一人の疑問に対応することで理解度向上につながった。

防災教育普及の事例

マイ・タイムラインの作成

取組主体 : 関川・姫川大規模氾濫に関する減災対策協議会

取組参加機関: 高田河川国道事務所、上越市立有田小学校

対象 : 有田小学校 4年生

参加人数 : 100人

取組概要 :

- ・総合学習において水災害への備えや対応について理解を深めた後、マイ・タイムラインを分かりやすく支援する教材である「逃げキッド」を利用して作成方法を学んだ。

取組の様子 :



総合学習の状況

期待される効果:

- ・児童自身が地域の水防災のリスクを認識できる。
- ・水防災意識の意識を高めるとともに避難行動へつながる。

事例のポイント:

- ・河川全般の学習に加え、水災害に対する意識をもってもらう。
- ・ハザードマップの読み方を学習し、学校周辺や避難経路、自宅周辺の危険箇所への認識を深める。
- ・逃げることをまず意識することを強調。
- ・クイズ形式などで興味をつなぐことを意識した。

講習会の事例

小学生向けマイ・タイムライン講習会 (長野県長野市)

取組主体 : 長野市立柳原小学校

取組参加機関: 千曲川河川事務所

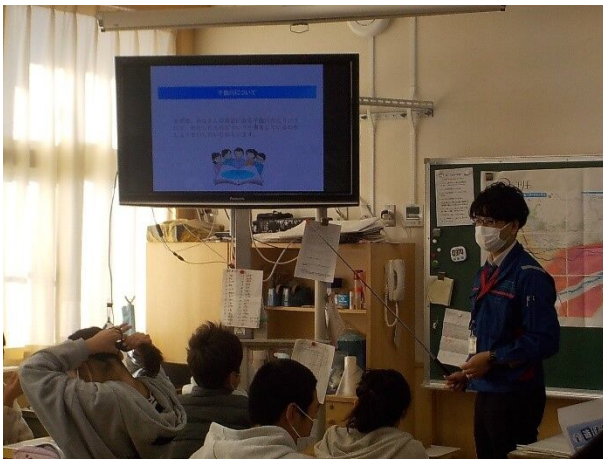
対象 : 柳原小学校6年生

参加人数 : 約30名

取組概要 :

- ・長野市立柳原小学校からの要請を受け、児童向けマイ・タイムライン講習会を実施した。
- ・校区内における水害リスクや川の特性などを説明し、マイ・タイムラインの作成を各自で行い、発表会を実施した。

取組の様子 :



期待される効果:

- ・各児童が河川の防災に関する知識を習得することで、水害時における適切な防災行動を行うことが期待される。

事例のポイント:

- ・学校周辺の水位観測所の位置や基準水位、浸水想定区域といった避難行動の目安となる防災情報の入手方法など、当該地域に合った説明を行った。
- ・児童が主体的にマイ・タイムラインを作成できるよう班別で検討を行い、発表を経て他の人の考え方をすることで、自らのマイ・タイムラインに活かすよう留意した。

自治体職員向け講習会の事例

自治体職員向けマイ・タイムライン講習会(石川県能美市)

取組主体 : 手取川・梯川大規模氾濫に関する減災対策協議会

取組参加機関: 金沢河川国道事務所

対象 : 石川県、能美市、川北町、金沢地方気象台の防災関係職員

参加人数 : 約20名

取組概要 : 一般の方へ「マイ・タイムライン」を作成指導している(今後、作成指導される)行政関係者を対象に、マイ・タイムラインの必要性や目的、住んでいる地区の水害リスクを説明し、作成指導または講習をするうえで参考となる情報を共有するために講習会を行った。

取組の様子 :



期待される効果:

自治体職員自らが、地域の水害リスクや、避難行動を判断する際に有益となる情報、その情報を得る手段などを知ること、住民向けの講習会を実施する際に説明や指導の参考となる。

事例のポイント:

住民向けの講習会を実施する前段階として、住民に避難を促す立場である自治体の職員が実際にマイ・タイムラインを作成することで、講師となる職員の育成や水防災への意識向上ができた。

小里川ダム下流地域(瑞浪市稲津町)の事例

小里川ダム管理支所が作成した教材を使ったマイ・タイムラインの訓練を実施

取組主体 : 瑞浪市

取組参加機関: 瑞浪市、みずなみ防災会

対象 : 瑞浪市稲津町小里川沿線地区代表(区長)等

参加人数 : 24名

取組概要 : 小里川ダム下流域の瑞浪市稲津町内における小里川沿線地区の区長等に、小里川ダム管理支所が作成した防災教育教材(マイ・タイムライン紹介映像、ハザードマップ、ワークシート等)を用いて、浸水によって危険な状態に陥る前の避難行動などを想定してもらったワークショップを実施した。

取組の様子 :

①導入 : マイ・タイムライン紹介映像を視聴し、

水害に対して備えることが大切だと意識する。

②展開前段: 居住地域の浸水想定図やハザードマップを用いて、

自宅からの避難計画を立てる。

③展開後段: マイ・タイムラインシートに、各自、避難を決断す

るまでにとる行動について、「いつ」行うべきかを

記入して意見を出し合う。

④終末: ダムや河川が発表する各種情報を認識し、訓練参加者各々の

危機意識を高めていただき、訓練後、地域全体に危機意識の

共有・発展を促す。



期待される効果:

マイ・タイムラインについて説明を受けながら実際に作成することで、自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを認識し、避難行動につながることを期待。

事例のポイント:

ダム下流域の住民に、ダム機能への認識向上を図り、洪水リスクを知ってもらう訓練を実施。

伊那市 デジタル・マイ・タイムラインセミナーの事例

防災意識啓発とデジタル・マイ・タイムラインの体験・習熟を目的として、住民向けのオンラインセミナーを実施

取組主体 : 伊那市、天竜川上流河川事務所
取組参加機関: 伊那市、国土交通省、中部地方整備局、
天竜川上流河川事務所、ヤフー(株)

参加者 : 伊那市住民 約40名

取組概要 :

- ・ 地域住民への防災意識の普及・向上を図ることを目的に最近の水害と流域治水、伊那市の防災の取り組み、マイ・タイムラインを説明。
- ・ オンライン参加者自身が実際にデジタル・マイ・タイムラインアプリを操作し、水害による自宅周辺の想定危険度チェック、家族構成に合わせた備蓄品や避難先の確認、身の安全を確保する行動のタイミングの設定等の操作体験を実施。
- ・ Web会議のブレイクアウトルームを使い、グループ討議を実施。
- ・ 本セミナーでは、ヤフー(株)のアプリを題材として使用し、参加者の操作環境を統一した。



取組の様子 :

【内容】

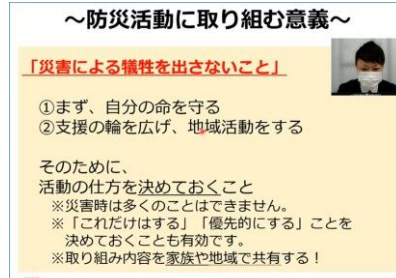
①最近の水害と流域治水の報告
(天竜川上流河川事務所)



②伊那市の防災の取り組み
(伊那市)

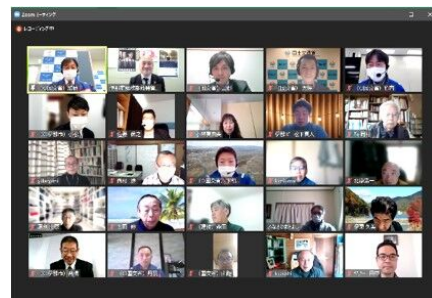
③マイ・タイムライン
(本局 水災害対策センター)

④デジタル・マイ・タイムライン
(ヤフー(株))



参加者からの意見:

- ・ スマートフォンなど携行できる端末で、一元的に情報を入手できるのはとても良いと感じた。
- ・ 入力項目も簡単で良かったが、高齢者が操作するには不安が残るので、サポートや講習会もやってほしい。
- ・ 自分のタイムラインだけでなく、地区の人たちの安否確認、避難状況を知れる機能があると良い。
- ・ 支援を必要とする人からメッセージを発信できる機能があると良い。



期待される効果:

- ・ マイ・タイムラインを作成することにより、自分が住んでいる水害リスクを知ることが期待される。
- ・ スマートフォンのアプリにより手軽にマイ・タイムラインの作成及び確認ができるとともに避難のタイミング等のプッシュ通知により適切な避難行動の促進に繋がる。
- ・ 離れて暮らす家族のマイ・タイムラインも作れるので、避難の声かけができる。

事例のポイント:

- ・ 新型コロナウイルス感染症が拡大の中でもオンラインにより開催。
- ・ マイ・タイムラインとデジタル技術の融合により避難行動を促進。

安八町立結小学校の事例

安八町立結小学校6年生を対象に、マイ・タイムライン作成の出前講座を実施

取組主体 : 安八町立結小学校

取組参加機関: 安八町立結小学校

対象 : 6年1組、6年2組

参加人数 : 47名

取組概要 : 安八町立結小学校において6年生を対象に、総合的な学習の時間の中で、水害が起こるまでの避難行動やタイミングのイメージを持てるようにマイ・タイムライン作成の出前講座を実施した。

実施取組の様子 :

①洪水ハザードマップを使用したグループワーク

浸水深等身大パネルを用いて水害時の浸水深を体感し、洪水ハザードマップにて、水害時の児童の自宅周辺の危険箇所を確認し、安全な避難ルートや避難先を考えるグループワークを行った。

②マイ・タイムラインの作成

水害が起こるまでの時系列的な状況変化に応じて、避難行動を考えてマイ・タイムラインを作るグループワークを実施した。

③授業のまとめ

グループワークを通じて、良い意見が沢山出てきました。家庭で家族とも話し合って、それぞれのマイ・タイムラインを作ってみてください。



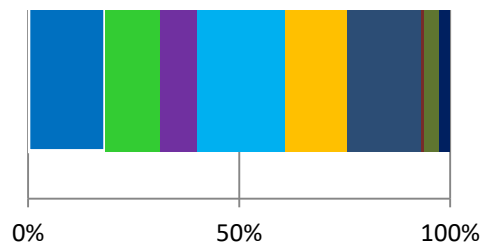
期待される効果:

- ・マイ・タイムラインについての出前講座を実施することで自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知ることが期待される。
- ・後日アンケート調査を行った所、半数の児童が、家族に授業のことを話したり、一緒にマイ・タイムラインを作ったりしている。授業を通じて、自らの命を守るだけでなく、家庭や地域への水防災意識向上につながると思われる。

事例のポイント:

小学校区版のハザードマップを参照し、居住地区ごとにグループに分かれ、避難方法の検討を行った。

授業後の児童へのアンケート結果
(授業の後で家で行ったこと)



- 天気予報を見るようになった
- 家の周りの危険箇所を調べた
- ハザードマップで色々な地域の浸水深を調べた
- マイ・タイムラインを作ったことを家族に話した
- 家族と避難時の持ち物や避難所、避難ルートなどを調べた
- 家族とマイ・タイムラインを作成した
- 近所の人たちと一緒にできることを調べたり、勉強した
- これから考える
- なにもしていない

コロナ禍におけるマイ・タイムライン取組事例

逃げキッドを用いたマイ・タイムライン作成講座をオンラインで実施しました。

取組主体 : 浜松市立北浜東部中学校

取組参加機関: 浜松市立北浜東部中学校

対象 : 全校生徒

参加人数 : 420名

取組概要 :

浜松市立北浜中学校の総合的な学習の時間において、天竜川の洪水の歴史、中学校周辺のハザードマップの見方、マイ・タイムライン作成キット(逃げキッド)を用いた防災講座を実施。新型コロナウイルス感染防止措置としてWEB形式により実施した。

取組の様子 :

【授業の内容】

①天竜川洪水の歴史

浜松河川国道事務所作成の冊子「天竜川物語」を配布し、天竜川の洪水の歴史について説明。

近年は大きな水害が発生していないが、過去には大災害がいくつも発生しており、いつ大災害が発生してもおかしくないことを再認識して頂いた。

②ハザードマップの見方

「重ねるハザードマップ」を活用し、ハザードマップの見方について説明。中学校周辺の浸水範囲や浸水深を認識し、避難所の位置等を確認して頂いた。

③マイ・タイムライン作成

マイ・タイムライン作成キット(逃げキッド)を用いて、実際にマイ・タイムラインを作成することで、災害時の避難のタイミング等を認識して頂いた。

【期待される効果】

自分たちの住んでいる地域の水害リスクを把握して頂き、マイ・タイムラインを作成していただくことで、水防災意識の向上を図るとともに、災害時に適切な避難行動をとって頂くことが期待される。

【事例のポイント】

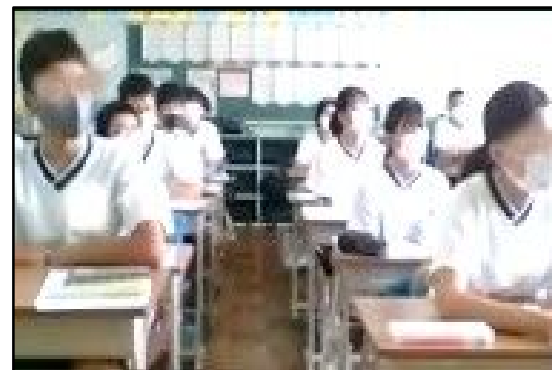
オンライン講座とすることで、一度に多くの生徒さんに聞いていただくことができた。



浜松河川国道事務所による説明の様子



出前講座(WEB方式)の様子



授業を受ける生徒の様子

静岡県立駿河総合高等学校の事例

大規模氾濫減災協議会として作成した教材を使った水防災授業にて、マイ・タイムラインを作成

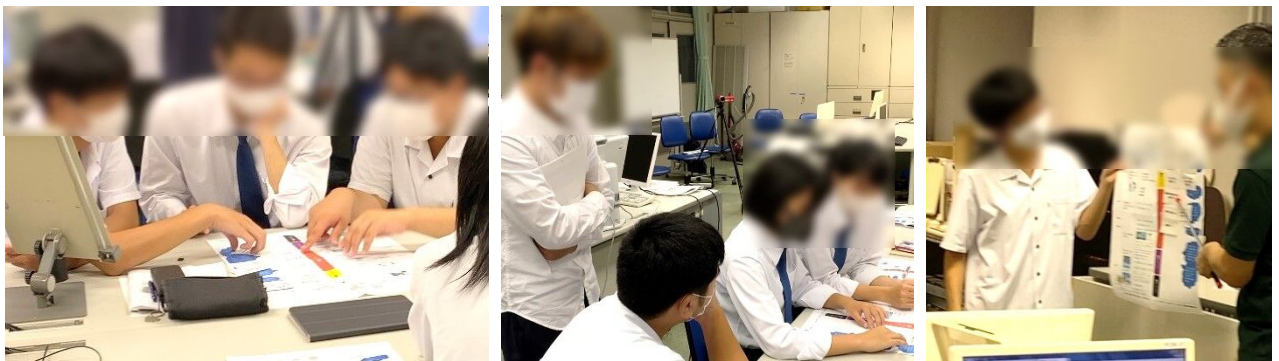
取組主体 : 静岡県立駿河総合高等学校

取組参加機関 : 静岡県立駿河総合高等学校 3年生有志・3年生1クラス

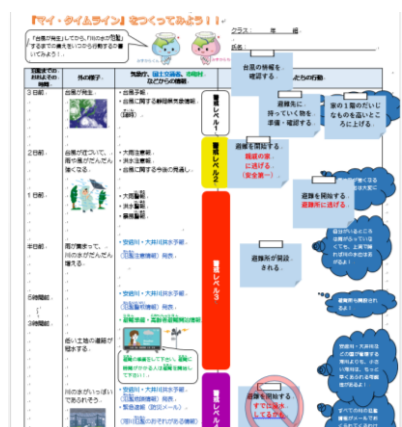
取組概要 : 静岡県立駿河総合高等学校にて、3年生の有志の生徒に対し、静岡大学の山本准教授を講師として、減災協議会として作成した教材を活用した水防災授業を実施。GIS機能を活用した浸水リスクの把握や、ナッジ理論を活用した避難促進とともに、マイ・タイムラインの作成を実施。また、マイ・タイムラインについては、受講した有志生徒自身が講師役となって同学年の生徒に対して防災授業を実施した。

取組の様子 :

有志による勉強会(大学生もサポーターとして参加し、意見交換)



有志の生徒が講師役となって、警戒レベルやマイ・タイムラインの作成方法を講義し、クラスで作成を実施



期待される効果:

有識者の意見も参考として生徒自身が行動内容を考える機会を通じて、複数の考え方や行動パターンがあること、各自が考える必要があることを認識できる効果が期待される。

事例のポイント:

高校生自身が講師となって、あるいは、大学生がサポーターとして、生徒に内容を伝えられるような教材内容とすることで、より身近にわかりやすいものとして展開することができた。

福井河川国道事務所の事例

マイ防災マップ作成、まち歩き体験を組合わせたマイ・タイムライン作成講座 (福井県福井市)

取組主体 : 福井市中藤島公民館

取組参加機関: 福井河川国道事務所、福井市中藤島公民館、中藤島地区自主防災会、
福井県防災士会、NPO法人ドラゴンリバー交流会

対象 : 福井県福井市中藤島地区

参加人数 : 延べ151名

取組概要 : マイ・タイムラインの作成を推進するため、マイ防災マップ作成から始め、①. 自分たちの住んでる地域の特性や水害リスクを知る基礎講座、②. マイ防災マップの作成に向けた「まち歩き」による避難ルートや注意箇所の確認の体験を実施、③. マイ防災マップ作成ワークショップまでを3回に分けて実施。次に、④. 逃げキッドを用いたワークショップ形式によるマイ・タイムラインの作成と各グループの発表・意見交換、共有を行った。その他、避難に必要な情報の取得に関する説明を行った。

取組の様子 :



【水害の基礎知識の向上】



【マイ防災マップ作成「まち歩き」】



【マイ防災マップ作成ワークショップ】



【マイ・タイムラインワークショップ】

期待される効果:

最悪の場合に自ら命を守るため、住民一人ひとりの自分自身に合った避難に必要な情報・判断・行動を把握し、マイ防災マップ及びマイ・タイムラインの作成による危機意識の高揚により、「逃げ遅れゼロ」に向け、地域防災力の向上を図る効果が期待される。

事例のポイント:

マイ防災マップ作成、まち歩き体験などの取組みとの組み合わせ

姫路河川国道事務所

お天気キャスターと一緒に考えるマイ・タイムライン作成講座 (兵庫県たつの市)

取組主体 : 姫路河川国道事務所

取組参加機関: たつの市

対象 : 主に揖保川沿川住民

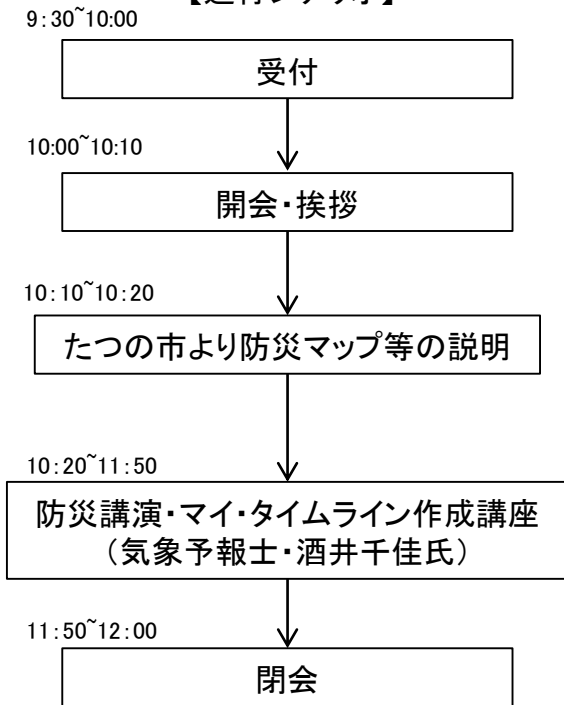
日時 : 10月16日(土) 10:00~12:00

参加人数 : 39名(10/16)

取組概要 : 住民自ら洪水時の円滑な避難を行うことを可能とする「マイ・タイムライン」を作成する講習会を実施した。講師には気象予報士・酒井千佳氏をお招きし、「逃げキッド」を用いてマイ・タイムラインの作成を行った。

取組の様子 :

【進行シナリオ】



期待される効果::

マイ・タイムラインを作成することによる水防災の危機管理意識の醸成や、避難判断の一助として、マイ・タイムラインの活用が期待される。

事例のポイント:

出来たばかり(R3.2発行)の、たつの市防災マップ(想定最大規模浸水対応)を使用した。

福知山河川国道事務所の事例

福知山市西町 みんなで逃げよう(MiNi)ワークショップ (京都府福知山市)

取組主体 : 福知山河川国道事務所

取組参加機関: 福知山市西町地区自治会幹部、福知山河川国道事務所、近畿地方整備局水災害予報センター、福知山市

対象 : 福知山市西町地区自治会幹部(5名)

取組概要 : 気候変動による洪水規模の増大による堤防などの施設だけでは防ぎきれない洪水に備え、各地区におけるマイ・マップ、マイ・タイムラインの作成を目的として、講習会を2回開催した。



ワークショップの様子

ワークショップを経て作成した防災マップ

(表)

(裏)

ワークショップの内容

(抜粋)

	日程	テーマ	内容
第1回(自助)	令和3年 11月15日(月) 18時~20時	テーマ1 地域の災害リスクを確認する	・地域の風水害リスクを知る ・分散避難の考え方と安全な避難場所・避難方法・避難ルート・危険個所の点検 ・マイ防災マップの作成
		テーマ2 個人の避難行動を考える	・自らの安全確保の方法を考える (マイ・タイムラインの作成)
第2回(共助)	令和4年 1月17日(月) 18時~20時	テーマ3 ひとりで避難できない人への対応を考える	・個人では避難ができない人・避難に対する意識が十分でない人への対応を考える (マイ・タイムラインが機能しない人)
		テーマ4 地域で支えあう約束をまとめる	・地域の支援行動の検討 ・役割分担と地域の約束を作成
		テーマ5 みなさんが防災リーダーに	・緊急時に率先して避難したり、普段からも防災意識を高める役割を果たす

西町自治会の避難支援行動

西町自治会では自力避難が困難な方を対象に、広域避難所への移送等の支援を行います。事前登録制(毎年6月に確認)で、連絡方法や移送分担等を確認しておきます。

緊急時の避難支援の流れ

- 避難所開設 ※大雨警報・洪水警報発表
- 由良川水位(福知山) 4 m ※ 氾濫注意水位到達
「避難準備スイッチ」作動 → 連絡分担で避難準備開始連絡
- 由良川水位(福知山) 4 m 後半からさらに増加の予想
「避難開始スイッチ」作動 → 連絡分担で避難支援行動開始連絡
「〇〇時に迎えに行くので、荷物を準備し、戸締り・火の用心に万全を期し、玄関内で待機してください。」
※マスク着用、手指消毒等、コロナ感染対策に注意 → 車で移送開始(三段池体育館)
- 三段池体育館に西町避難支援本部設置 自治会長含む複数の役員待機
- 西町防災LINE、自治会緊急連絡網(必要な場合)で避難支援完了伝達
- 本部は必要な情報収集を行うとともに緊急の避難支援希望に対応します。下記までご連絡を。
※緊急避難支援には、安全な状況下でのみ対応します。

期待される効果: マイ・タイムラインを作成することにより、自分自身の安全確保のための行動に対する理解を深められる。また、ひとりで避難できない人への対応や地域の支援行動と役割分担を検討することにより、地域に対する防災意識が向上する効果が期待される。

事例のポイント: ひとりで避難できない人の状況や、避難しない人の理由について考え、課題を抽出。ひとりで避難できない人は、地域が避難所への移送等の支援を行う。

京都府綾部市の事例

マイ・タイムライン及び防災マップ作成に係る説明会

取組主体 : 綾部市

取組参加機関: 京都府

対象 : 新庄自治会

日時 : 令和4年1月18日(火) 19:00~21:00

参加人数 : 25名

取組概要 : 綾部市主導により、1回の住民参加によるワークショップを新庄自治会(物部地区)に対し行った。
新型コロナウイルス感染症の観点から説明会の回数を減らし、事前に自治会役員と打ち合わせし防災マップ作成に係る危険箇所、避難ルート、避難所等の抽出、避難行動の「いつ」「どこへ」「どのように」の案を検討いただいた上で説明会を実施した。

取組の様子 :

【タイムライン作成の流れ】

事前協議(綾部市⇒自治会役員)

- タイムラインの概要
- 防災マップの作成の説明・文書配布
- 避難行動の検討(「いつ」「どこへ」「どのように」)

事前協議(自治会役員⇒自治会員)

- タイムラインの概要
- 防災マップの作成の説明・文書配布
- 避難行動の検討(「いつ」「どこへ」「どのように」)

第1回ワークショップ

(講義)

- タイムラインの概要
- 避難行動のあり方に関する説明
- 事前に検討いただいた、タイムライン・防災マップの確認・共有

(ワークショップ)

- スイッチ・避難先の選定
- 役割分担の検討



期待される効果:

タイムライン作成のワークショップにおける意見交換や作業により、災害の特性や、避難に関する知識、実際にとるべき行動への理解が深まり、地域住民の防災意識向上が期待できる。

事例のポイント:

事前に避難のタイミング、危険箇所等を検討いただいた上で説明会を実施した。

淀川河川事務所の事例

河川レンジャー^{*}による小学校での防災学習 「マイ・タイムライン」出前授業（京都府城陽市）

- 取組主体 : 淀川管内河川レンジャー
- 取組参加機関 : 城陽市内小学校3校(青谷小学校、古川小学校、今池小学校)
- 対象 : 城陽市内小学校4年生、校長、教諭
- 参加人数 : 延べ118名
- 取組概要 : 児童が理解しやすいように校区別にハザードマップをカスタマイズ、周辺の施設等を書き加え、通学路を活用した説明を行った。
児童が能動的に学びあえるよう（アクティブラーニング）、グループで協力して考える場面を取り入れてマイ・タイムラインを作成。
- 1.大雨や台風などで水害が起きることを学び、城陽市の防災マップで自分の家の危険度を調べ、避難所を確認。
 - 2.班活動で意見を出し合いながら、マイ・タイムラインのシートを避難行動シールを貼って作成。振り返りの中で、してはいけない避難行動を確認。
 - 3.振り返りシートにコメントを付けて返却していくことで、家族に授業を知ってもらい、マイ・タイムライン(避難)について話し合うきっかけづくりを促した。

取組の様子 :

<p>授業の流れ</p> <p>【導入】水害の話 外水氾濫/内水氾濫 土砂災害/高潮高波</p> <p>【展開1】近くで水害は起きるか ハザードマップの見方 浸水深/土砂災害地域の説明 避難所の確認</p> <p>【展開2】グループワーク マイ・タイムラインの作成</p> <p>【まとめ】 学習の振り返り</p>	 <p>【ハザードマップの解説】</p>	 <p>【自宅の危険を調べる】</p>
	 <p>【マイ・タイムライン作成】</p>	 <p>【学習のまとめ】</p>

期待される効果 :

マイ・タイムラインを作成することで危機意識を高め、授業を受けた児童自身だけでなく、家族へ話をするすることで、「逃げ遅れゼロ」に向けた地域防災力の向上を図る効果が期待される。

事例のポイント :

グループワークを取り入れたり、自宅や避難場所を探しやすくした校区ごとの防災マップを用意し、児童が達成感を得られるよう工夫し、児童が自分事として考える授業とした。

※河川レンジャーHP URL:<http://www.river-ranger.jp/>

親子参加のマイ・タイムライン講座の事例

マイ・タイムライン講座 ～親子で広島の川を知ろう～（広島県広島市）

取組主体 : 広島リビング新聞社

取組参加機関: 太田川河川事務所、広島市危機管理室災害予報課

対象 : 3年生から6年生までの地元の小学生、親子9組

日時 : 令和3年7月31日(土) 10:00～12:00

参加人数 : 約18名

取組概要 : 広島リビング新聞社主催の親子向け講座「子供を守るマイ・タイムライン作り」で、太田川河川事務所職員が講演を行いました。
マイ・タイムラインの作成方法を逃げキッドを使いながら解説しました。
お母さん、お父さんも一緒になって、マイ・タイムラインの作り方や避難情報の収集の仕方を学びました。

取組内容

- ◆講演: マイ・タイムラインの作り方
 - ・避難する際の注意点
 - ・災害時に役立つサイトの紹介
 - ・非常持出品の紹介



避難情報の入手方法の説明

マイ・タイムラインを作成



逃げキッドを使いながらマイ・タイムラインの作成方法を解説

子どもを守るマイ・タイムライン作り 広島の川について学び 台風や大雨の前に備える

ご参加ありがとうございました

9組20人の親子が参加。マイ・タイムラインの作り方を学んだり(上)、非常持ち出し品の確認を行いました(下)



広島リビング新聞社は7月31日、国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所との共催で「子どもを守るマイ・タイムライン作り」を開催しました。親子で真剣に聞いている姿が印象的で、防災・減災への意識がさらに高まりました。ご参加ありがとうございました。

「子どもを守るマイ・タイムライン作り」講座を開催しました(協力/広島市危機管理室災害予報課)。講座は危険な豪雨の際に「災害対策室」になる特別室で実施。広島土地の成り立ちや過去の洪水、現在の治水、災害を想定した行動計画を作るマイ・タイムラインの作り方、避難する際の注意点、災害時に役立つサイト、非常持ち出し品について紹介しました。親子で真剣に聞いている姿が印象的で、防災・減災への意識がさらに高まりました。ご参加ありがとうございました。

- 参加者からのコメント(抜粋)
- 「マイ・タイムラインの活用方法が良く理解できた。」
 - 「防災意識が高まった。」

広島リビングの新聞に掲載されました

防府高等学校で出前講座！（山口県防府市）

取組主体 : 山口河川国道事務所

取組参加機関 : 山口河川国道事務所

対象 : 防府高等学校2年次生

日付 : 令和3年11月15日(月)

参加人数 : 約18名

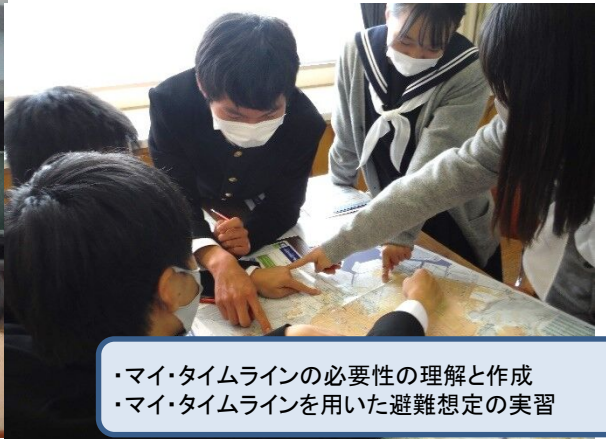
取組概要 : 防府高校の「総合的な探究の時間※」の中で佐波川を題材に出前講座を実施しました。気候変動による影響や自然災害への対策について、流域治水対策の考え方やマイ・タイムライン(一人ひとりの防災行動計画)作成を通じて、防災や環境問題に対する理解を深めて頂きました。

取組内容

- ◆ 講演 : 地球温暖化と防災に関する講義
 - ・ 防災情報の確認とマイ・タイムラインの作成実習
 - ・ 気候変動から地球(地域)を守る具体的な対策の検討



- ・ 気候変動による地球温暖化と洪水頻発化
- ・ 流域治水対策の必要性等を講義



- ・ マイ・タイムラインの必要性の理解と作成
- ・ マイ・タイムラインを用いた避難想定の実習



- ・ 最新の防災情報の習得と活用方法の検討

※「総合的な探究の時間」とは学習指導要領の改訂により、2022年度から高等学校にて本格実施される科目のこと。防府高校においては「主体的・対話的で深い学び」を通して、他者と協働しながら新たな価値の創造や課題解決をめざしている。今年度の2年次生は、「SDGsの17の目標」から1つを選び、課題設定、解決策の検討などを進めることで探究活動に取り組んでいる。



マイ・タイムラインの事例

鳥取市マイ・タイムラインワークショップを開催しました

(鳥取県鳥取市)

取組主体 : 鳥取市、鳥取河川国道事務所

取組参加機関: 鳥取市、鳥取河川国道事務所

対象 : 鳥取市大正地区の住民

日時 : 令和3年11月14日(日)9時30分～11時00分

参加人数 : 約42名

取組概要 : 鳥取市及び鳥取河川国道事務所により、鳥取市大正地区の住民に対して『鳥取市マイ・タイムライン』を活用したワークショップを開催しました。『鳥取市総合防災マップ』を参照しながら、自宅の水害リスクや、避難場所までの避難ルート、各警戒レベルでのとるべき行動について、住民同士で意見交換を行いながら住民一人一人のマイ・タイムラインを作成しました。

取組内容

◆講演:

- ① 鳥取市総合防災マップの見方
- ② 大雨の時に想定される状況
- ③ マイ・タイムラインの作成
 - ・マイ・タイムライン記入
 - ・Step.1「自宅の水害リスクの確認」
 - ・Step.2「安全な避難先の検討」
 - ・Step.3「避難場所までの避難経路の検討」
 - ・Step.4「避難を行うための準備や所要時間の検討」
 - ・Step.5「非常持出品」
 - ・Step.6「警戒レベル毎の私がとる行動チェックリスト」
 - ・全体発表
- ④ 安全な避難のための工夫
- ⑤ 質疑応答

<ワークショップの様子>



千代川水系流域治水プロジェクトの概要説明



鳥取市総合防災マップ

■ワークショップを終えた住民の感想

- ・「警戒レベル3では避難していないのが現状。千代川は堤防が強化されているが、有富川が決壊したら危険である。また、災害が近づいている際は、薬があるかどうか、確認しておく必要がある。テレビやスマートフォン等で、常に情報を収集できるようにしておく。」
- ・「ワークショップを開催いただくなど、既に公助はいただいている。これからは皆さんが地域に広めていただき、各自治会で勉強会を開催するなど、自助・共助に取り組みましょう。そして災害時に避難できる体制を整えていきましょう。」

地域連携型要配慮者マイ・タイムライン

地域を巻き込んで、要配慮者が避難できる仕組みを(岡山県倉敷市)

取組主体 : 高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所(事務局)

取組参加機関: 真備地区関係機関・事業所等連絡会、真備高齢者支援センター(地域包括支援センター)、まちづくり推進連絡協議会、民生委員、社会福祉協議会、倉敷市 ほか

対象 : 倉敷市

参加人数 : 真備町の要配慮者を中心に取り組みを拡大

取組概要 : 西日本豪雨で、倉敷市真備町は51名もの方が亡くなられた(災害関連死除く)が、そのうち約8割が70歳以上の高齢者でした。そのため、洪水で死者を出さないためには、高齢者や障がい者など1人で自発的に避難することが難しい方々に避難してもらうことが重要です。倉敷市真備町地区では、要配慮者が、「いつ」「どこに」「誰と」「どうやって」避難するか、隣近所をはじめとした地域の方々や、福祉事業所職員等一緒に考える、「地域連携型のマイ・タイムライン」の作成を進めています。さらには、蓄積されたノウハウを作成ヒント集としてまとめるとともに、劇団「老いと演劇 OiBokkeShi」(主演俳優は94歳)による作成支援動画を作成し、取り組みを加速化しています。

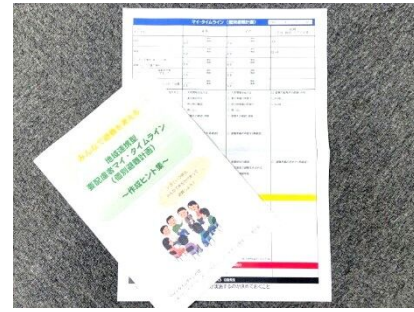
取組の様子 :



要配慮者マイ・タイムライン作成中の様子



要配慮者マイ・タイムラインにもとづき避難訓練を実施



要配慮者マイ・タイムライン作成ヒント集

日頃から気にかけてくださる近所のみなさんに安心と感謝!

地域の方がいざというときに助けてくれることは心強い!

今度はためらわずに避難したい!

日常的に声を掛け、いざというときは、一緒に避難をしたい!

地域の宝のような方々に、自分が恩返しできるチャンス!

マイ・タイムラインは温かいまちづくりに必要不可欠!

皆で自分事として捉えて。まずはやってみることが重要!

皆で集まり、顔を合わせながら話をする時間がとても大切!

作成者の声



劇団OiBokkeShiによる要配慮者マイ・タイムライン作成動画

期待される効果:

- ・日頃から地域全体のコミュニケーションが活性化される
- ・要配慮者が計画的に避難できる
- ・避難支援が支援する側の避難スイッチにつながり、地区全体の早期の避難促進につながる

事例のポイント: 要配慮者(または家族)、隣近所の地域住民、福祉事業所が対面で話をする

聴覚障害者、及び関係者へのマイ・タイムライン研修の事例

聴覚障害者、及び関係者へ研修を行いました(岡山県岡山市)

取組主体 : 岡山県聴覚障害者センター

取組参加機関: 岡山河川事務所・高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所

対象 : 聴覚障害者、災害救援専門ボランティア、手話通訳者、要約筆記者、その他聴覚障害者の福祉や防災に関心のある方

日時 : 令和4年1月9日(日) 13:30～16:00

参加人数 : 約70名

取組概要 : 聴覚障害者、及び聴覚障害に関係する方への研修会が開催され、職員が講師として参加しました。手話通訳や要約筆記の方の協力のもと、風水害から身を守る「逃げ遅れゼロ」の行動を実現するために、マイ・タイムラインとその活用法について紹介しました。

取組内容

- ◆講演 : 「マイ・タイムラインを作って逃げ遅れゼロ！」
 - ・講話「災害から身を守るために」(岡山河川事務所)
 - ・「逃げキット」を活用したマイ・タイムラインの作成(岡山河川事務所)
 - ・要配慮者マイ・タイムラインの紹介(高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所)



マイ・タイムライン作成動画の公開

『マイ・タイムライン』を作ろう！！ 作成方法を動画で解説（香川県坂出市）

取組主体：坂出市

取組参加機関：坂出市

対象：一般住民

取組概要：

- ・坂出市の洪水ハザードマップの裏面には、マップの使い方、『マイ・タイムライン』の作成方法を記載しており、その『マイ・タイムライン』作成方法について動画を作成し、YouTubeにて公開。
- ・YouTube動画URL：<https://www.youtube.com/watch?v=XJXkVOaOIFc>

取組の様子：坂出市ハザードマップ



期待される効果：

ハザードマップの配布だけでなく、作成方法を動画として公開することで、いつでも簡単にタイムラインが作成できる。

事例のポイント：

具体的な行動例を記載し、選択式にすることで、容易に作成できるようにした。

全世代に広がるマイ・タイムラインづくりの事例

全世代に広がるマイ・タイムラインづくり(愛媛県松山市)

取組主体 : 松山市

取組参加機関: 河川情報センター、愛媛大学防災情報研究センター、松山市自主防災組織ネットワーク会議、市内学校ほか

対象 : 自主防災組織、市内学校の児童・生徒ほか

参加人数 : 参加者多数

取組概要 :

- ・松山市では平成30年7月豪雨を受け、令和元年度にマイ・タイムライン作成のファシリテーターを養成する研修を市職員、市消防署員、愛媛大学防災情報研究センターの皆さんに参加いただき開催。研修後、松山市オリジナルのマイ・タイムラインシートを作成。
- ・その後、松山市の全自主防災組織が参画する松山市自主防災組織ネットワーク会議にて、マイ・タイムライン作りの研修会を開催。地区の代表者らが作成方法を学び、後日、自分の地区で住民を集めてマイ・タイムラインづくりを行った事例もある。さらに、災害時の地域の行動をまとめたタイムラインづくりに取り組んでいるところもある。
- ・また、市内の学校にも出向きマイ・タイムラインの出前授業を実施したり、先生がマイ・タイムラインづくりを授業で取り入れられるようにサポート動画を作成し、市内すべての小中学校に配布。
- ・以上の取組みにより、松山市では全世代へマイ・タイムラインづくりの輪を広げている。

取組の様子 :



ファシリテーター研修の様子



松山市自主防災組織ネットワーク会議での研修の様子



内宮中学校でのマイ・タイムラインづくりの授業の様子



松山東高等学校でのマイ・タイムラインづくりの授業の様子

期待される効果:

様々な世代にマイ・タイムラインづくりが広がることで、自助・共助の輪が広がり、地域防災力の向上につながっている。

事例のポイント:

ファシリテーターの育成と、様式や作成の手引きを市HPで公開して取り組みやすい環境を整えていることが、マイ・タイムライン作りが広がるきっかけとなっている。

産官学民が連携したマイ・タイムライン活用展開の事例

松山逃げ遅れゼロプロジェクト(愛媛県松山市)

取組主体 : 松山市、愛媛大学松山防災リーダー育成センター

取組参加機関: 松山市教育委員会、国土交通省四国地方整備局松山河川国道事務所、松山市自主防災組織ネットワーク会議、松山市消防団、松山市社会福祉協議会、一般社団法人四国クリエイト協会、松山中央ライオンズクラブ、松山白鷺ライオンズクラブ、愛媛県中予地区郵便局長会

対象 : 松山市民

参加人数 : マイ・タイムライン作成
(中学生、自主防災組織、防災士、福祉施設、小中学校、保育園・幼稚園)
協議会設立講演会参加者: 会場110人、WEB250人

取組概要 :

- ・令和3年度末に「まつやま防災マップ」とあわせて「まつやまマイ・タイムライン」を全戸配布。
- ・松山市長が中心となってマイ・タイムライン推進協議会設立(R4年5月)。

(今後の予定)

- ・全ての市立中学校で1年生を中心に、マイ・タイムライン作成の授業実施。
- ・自主防災組織や防災士を対象に、地域のマイ・タイムライン作成や、作成の指導者を育成。
- ・福祉施設、小中学校、保育園・幼稚園で、施設版タイムラインの作成を推進。
- ・マイ・タイムライン作成支援のためのテキストや動画を作成。

取組の様子



マイタイムライン推進協議会設立(R4.5.10)



記念講演会開催状況(R4.5.10)



松山市長による挨拶(記念講演会:R4.5.10)



小中学校教員を対象にした指導者研修会(R4.7.1)

期待される効果:

- ・「マイ・タイムライン」の作成を市内全域で推進することで、家庭で防災に対する危機意識を高め、風水害での逃げ遅れをなくす。

事例のポイント: 産官学民の連携によりマイ・タイムライン作成の普及を促進。

小学生を対象とした「マイ・タイムライン」作成の事例

自らの判断で避難行動を考える「マイ・タイムライン」の作成 (徳島県松茂町)

取組主体 : 松茂町立松茂小学校

取組参加機関: 徳島河川国道事務所

対象 : 松茂町立松茂小学校4年生

参加人数 : 80人

取組概要 :

- ・事務所職員が小学校へ出向き、パワーポイントや最近の洪水被災状況等の動画を活用した座学と、クラスを6班(1班4名程度)に分け、実際に「マイ・タイムライン」を作成するグループワークを実施した。
- ・座学は、「吉野川の水害を知ろう! ~「もしも」の洪水にそなえるためにできることを考えよう~」をテーマにパワーポイントや動画を活用し、説明を実施した。さらに、洪水による浸水とはどのような被害かを生徒一人ひとりが理解してもらった上で、松茂町が各家庭に全戸配布しているハザードマップを確認する時間を設けた。
- ・グループワークは、あらかじめ用意された複数の選択肢の中から、グループで話し合いながら、「マイ・タイムライン」の作成を実施した。最後に、各班で作成したマイ・タイムラインを発表し合い、他の班との考えを共有した。

取組の様子 :



動画を活用した座学の実施状況



「マイ・タイムライン」の作成状況



生徒がハザードマップを確認する状況



生徒による「マイ・タイムライン」の発表状況

期待される効果:

「マイ・タイムライン」の作成を通して自分自身がとるべき防災行動を整理しつつ、洪水発生時に必要な情報・判断・行動を学ぶことができる。

事例のポイント:

「マイ・タイムライン」を作成・共有することで一人ひとりに適した「自分の逃げ方」を知ることの重要性を伝えられた

小学生を対象とした防災学習の事例

家族でつくるマイ・タイムライン学習会(香川県まんのう町)

取組主体 :まんのう町立長炭小学校PTA

取組参加機関:香川河川国道事務所、(一財)河川情報センター外部講師(近藤秀樹)

対象 :まんのう町立長炭小学校

参加人数 :17人

取組概要 :

- ・まんのう町立長炭小学校の生徒及び保護者が参加され、近年の異常な豪雨や河川の急激な水位上昇に対する安全な行動を学んだ。
- ・講師から「自分と家族の命を守るため」に、土器川の特徴や、台風の位置を知る方法、スマートフォンで確認できる気象・水象やCCTV画像、風の強さ、雨量の観測について説明があり、家族でつくるマイ・タイムラインについても参加者は楽しく学んだ。

取組の様子 :



講師から「自分と家族の命を守るため」の説明



団扇でどれくらい強い風が起こせるかの実験



ペットボトルを使用した雨量計の作成



参加者全員での記念撮影

期待される効果:

子供から大人まで幅広い世代にマイ・タイムラインを作成させることの重要性及び、自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知ることが期待される。

事例のポイント:

子供たちを通じ、家族全員で水害における知識を共有できる。

飯塚市におけるマイ・タイムラインの事例

マイ・タイムライン作成講座(福岡県飯塚市)

取組主体 : 飯塚市

取組参加機関: 遠賀川河川事務所

対象 : 飯塚市内小学生親子

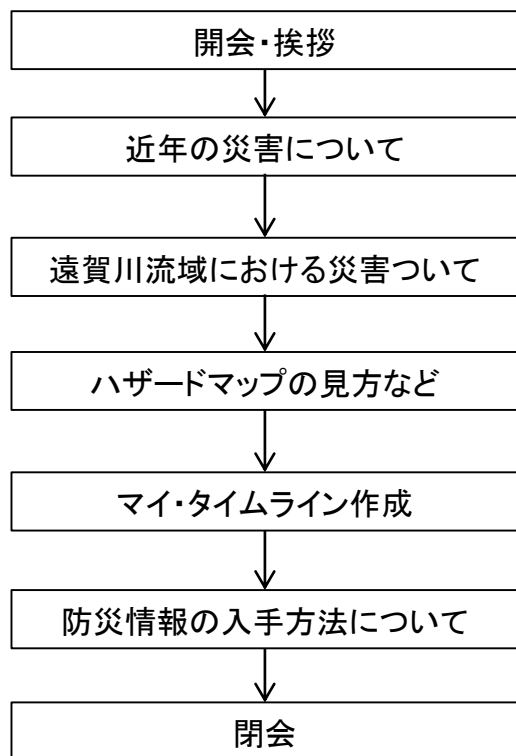
参加人数 : 合計67名(夏休み期間中の5日間、小学校毎に開催)

取組概要 :

- ・飯塚市内の小学生親子を対象に、ハザードマップを用いて洪水の危険性を知り、いつどの様に避難するかを親子で一緒に考えてもらうため、「親子マイ・タイムライン講習会」を開催した。夏休み期間中に、各小学校区ごとに5日間開催。

取組の様子 :

【進行シナリオ】



期待される効果:

- ・親子でマイ・タイムラインを作成することで、家族で洪水リスクを理解・共有することができ、避難のタイミングや方法などを一緒に考えるため、防災意識の高揚だけでなく、より実効性のある避難行動となることが期待される。

事例のポイント: 家族での講習会としたこと。また、家族で参加しやすい様に夏休み期間中に各小学校区での開催とした。

ゆめさが大学におけるマイ・タイムラインの事例

マイ・タイムライン作成講座(佐賀県佐賀市)

取組主体 : 公益財団法人 佐賀県長寿社会振興財団「ゆめさが大学」

取組参加機関: 武雄河川事務所

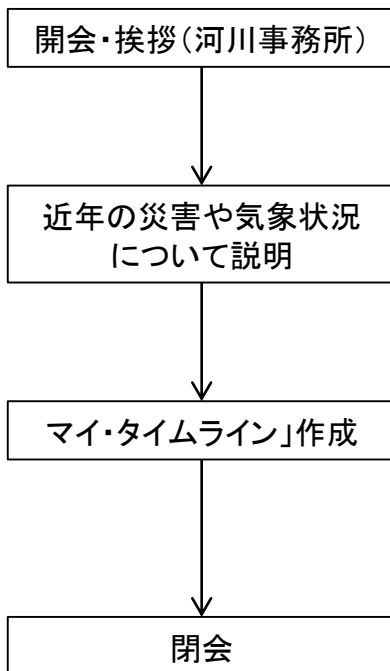
対象 : ゆめさが大学 佐賀校大学院1組・2組

参加人数 : 組ごとにそれぞれ1日ずつ開催 合計120人程度

取組概要 :

- ・ゆめさが大学はシニアの学習と交流の機会を提供し、その生きがいの高揚と社会活動の促進を図るとともに、地域社会を担う人材を養成している生涯学習機関であり、講義の一環として行ったものである。佐賀県では2年間で2度の大きな水害が発生していることから、住民も危機感をある程度持っているものの、早めの避難行動が非常に重要であることを伝え、「マイ・タイムライン」の有効性を説明したうえで、「逃げキット」を使用し実際に作成作業を行った。

取組の様子 : 【進行シナリオ】



期待される効果:

- ・早めの避難行動が特に重要である高齢者自身がマイ・タイムラインを作成することで、事前の避難行動に繋がることが期待される。

事例のポイント: 普段は流域内での作成講座が多いなか、ゆめさが大学の性質上、特定の地域に限ったものではなく県内各地からの参加であったため、マイ・タイムラインの普及に効果があったものと考えられる。

延岡市におけるマイ・タイムラインの事例

延岡市古川地区におけるマイ・タイムライン作成 (宮崎県延岡市:五ヶ瀬川)

取組主体 : 古川地区の地域住民

取組参加機関: 延岡河川国道事務所、延岡市危機管理課、延岡市消防本部、
五ヶ瀬川流域ネットワーク、延岡市防災推進員

対象 : 延岡市古川地区に在住の方

参加人数 : 約30名

取組概要 :

- ・2005年台風14号で大きな浸水被害を被った古川地区においては、L2浸水域はもちろん土砂災害警戒区域も含まれており、大雨の際には、早め早めの避難行動に繋げるためにも「自ら守る」行動を適切に図ることが肝要。
- ・今回、「マイ・ハザードマップ」「マイ・タイムライン」「コミュニティタイムライン」の3種類の作成作業を通じて、地域内における避難経路として安全なルート・危険なエリアなどを実際の町歩きも含めて理解を深めていただくことができた
- ・併せて、防災情報を自ら入手するという観点で、身近な情報入手ツールである「スマホ」を使った入手方法確認を行い、安全な場所で川の水位・映像を確認出来ることを皆で認識した

取組の様子 :



町歩きによる危険箇所、避難ルートの確認



水害リスク情報の抽出、避難ルートの設定

	平常時	台風発生時	台風接近	少雨・弱風	雨風が徐々に強くなる	台風最接近 雨風強い
気象情報	台風発生時 (台風発生時)	台風発生時 (台風発生時)	台風発生時 (台風発生時)	台風発生時 (台風発生時)	台風発生時 (台風発生時)	台風発生時 (台風発生時)
五ヶ瀬川の情報	五ヶ瀬川の水位 五ヶ瀬川の水位 五ヶ瀬川の水位	五ヶ瀬川の水位 五ヶ瀬川の水位 五ヶ瀬川の水位	五ヶ瀬川の水位 五ヶ瀬川の水位 五ヶ瀬川の水位	五ヶ瀬川の水位 五ヶ瀬川の水位 五ヶ瀬川の水位	五ヶ瀬川の水位 五ヶ瀬川の水位 五ヶ瀬川の水位	五ヶ瀬川の水位 五ヶ瀬川の水位 五ヶ瀬川の水位
市から発令される情報	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告
住民 (自力で避難)	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告
住民 (支援が必要)	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告
自治会役員	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告
消防団	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告
民生委員	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告
官公庁	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告
消防・警察・自衛隊	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告	避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告 避難指示・避難勧告



スマホ実践

スマホで説明

防災情報の入手(スマホによる実演練習)

期待される効果:

- ・逃げ遅れゼロへの理解・促進
- ・マイ・タイムラインを作成することで、自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを理解し、事前避難に繋がることが期待される

事例のポイント: 実際に町歩きを行うことで、昼間・夜間避難時のリスクを確認するとともに、情報入手方法についても実演して理解を深めることができた

筑後川河川事務所の事例

杷木小学校におけるマイ・タイムライン作成講座 (福岡県朝倉市)

取組主体 : 朝倉市教育委員会(杷木小学校)

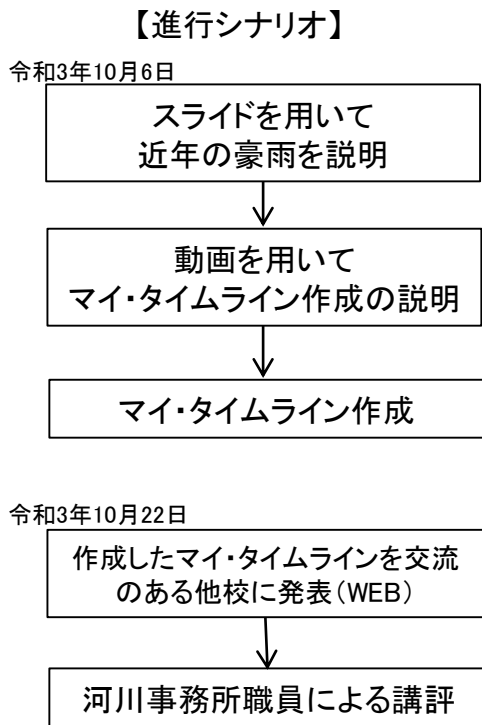
取組参加機関: 筑後川河川事務所

対象 : 朝倉市立杷木小学校6年生

参加人数 : 30人程度

取組概要 : 朝倉市杷木地区は2017年(平成29年)に九州北部豪雨によって甚大な被害を受けた。被災当時2年生であった児童たちは、これまでの防災教育を通じて防災意識が高く、災害に備えて、家庭で活用できるマイ・タイムラインを作成することで、自助の大切さを家族や地域に伝え、防災力向上に積極的に関わることができるよう本講座を実施した。本講座では「逃げキッド」を用いてマイ・タイムラインの作成を行った。

取組の様子 :



期待される効果:

マイ・タイムライン作成講座を通して、ハザードマップの見方を習得したり、避難するときに必要な情報を収集する方法を身につけ、自宅の災害リスクと安全のためにとるべき行動を理解することが期待できる。

事例のポイント:

被災地の小学生がマイ・タイムラインを作成したことにより、家庭に持ち帰り、家族や友人と話すことで、防災力向上のきっかけとなった。

山国川河川事務所の事例

マイ・タイムラインづくり検討会（山国川流域自治体）

取組主体 : 山国川河川事務所

取組参加機関: 大分県、中津市、上毛町、NPOレスキュー・サポート九州

対象 : 河川事務所職員、各機関の防災関係者職員、NPOレスキュー・サポート九州関係者

参加人数 : 21人

取組概要 : 令和3年度7月13日に「マイ・タイムラインづくり検討会」をコロナ対策を図り開催、当事務所において若手職員のスキルアップを図るため、若手職員4名を含む事務所全課出張所から計16名、他機関の大分県、中津市、上毛町の防災関係職員並びにNPOレスキュー・サポート九州より計5名、総員21名が参画して、マイ・タイムライン普及ツール「逃げキッド」を活用し、近年の災害、山国川の洪水、気候の変動、取組の重要性や効果の理解と併せて、地域住民に対して指導ができるよう技術の取得に関係機関が連携して取り組んだ。

取組の様子 :



▲できあがったマイ・タイムラインについて報告する若手職員



▲ハザードマップで
浸水範囲や避難所等を確認



▲集合写真



▲全景

▲事務所長講評

期待される効果:

参加者から「浸水想定図やハザードマップを見るなど作る過程に大切なことがある」、「災害に対して早め早めの行動が重要」などの声があがり、地域住民に対して普及させる重要性が再確認され参加者の意識向上が期待される。

事例のポイント:

浸水想定図やハザードマップも参照し、タイムラインツール「逃げキッド」を活用し検討を行った。